

東京大学演習林鳥類目録
第2版
(2008年8月～2014年3月)

東京大学演習林鳥類研究会

Bird List of The University of Tokyo Forests, The University of Tokyo
2nd Edition
(August, 2008 ~ March, 2014)

Bird research group of The University of Tokyo Forests, The University of Tokyo

I. はじめに

東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林 (以下, 演習林) は, 1894年の千葉演習林 (以下, 千葉) 創設以来, 100年を超える歴史を持ち, 北海道演習林 (以下, 北演), 秩父演習林 (以下, 秩父), 生態水文学研究所 (以下, 生水), 富士癒しの森研究所 (以下, 富士) 樹芸研究所 (以下, 樹芸), 田無演習林 (以下, 田無) の計7つの地方演習林から成り, 亜寒帯から暖温帯, 海岸から亜高山帯までの森林帯を有する, 教育・研究活動のための森林である。

前回報告の目録では, 2004年4月から2008年7月までの5年間について, 各地方演習林で確認された鳥類について報告した。その後も5年を目途に報告することにより, 森林構造・気象等の変動に伴う鳥類相の変化を捉え, モニタリングする予定としていた(1)。本報告では, 2008年8月から2014年3月末までの5年間の調査結果を報告する。

本報告を取りまとめた東京大学演習林鳥類研究会は, 東京大学演習林基盤データ整備委員会・生物部門・鳥類担当の活動における部会の一つとして位置づけられており, 各地方演習林の鳥類に関連した教育・研究支援のための基礎資料の整備を目的としている。各地方演習林を担当する職員は, 以下の通りである (2014年3月現在)。千葉: 阿達康真・村川功雄, 北演: 福岡哲・木村徳志・及川希・犬飼慎也・遠國正樹, 秩父: 齋藤俊浩・才木道雄・高德佳絵・千嶋武・五十嵐勇治, 生水: 松井理生, 富士: 村瀬一隆, 齋藤純子。

本報告をまとめるに当たり, 各地方演習林の職員に有益な情報を提供していただいた。この場をお借りして御礼申し上げます。

II. 調査地および方法

2011年度までは、繁殖期にラインセンサス、通年で任意調査を行った。2012年度からは、I種調査とII種調査を行った。I種調査は、全地方演習林の必須調査という位置づけであり、担当者不在の演習林については隔年で行った。内容は、繁殖期に、これまでラインセンサスを行っていた場所でポイントセンサスを行うことと、通年で、地方演習林全域で任意調査を行った。II種調査は、各地方演習林の自助努力により行うもので、自動撮影カメラやボイスレコーダーを用いた調査、繁殖期のラインセンサスや巣箱調査、越冬期のポイントセンサス等を行った。

各地方演習林のI種ポイントセンサス調査地とII種調査地は、以下の通りである。千葉（35° 9′ N, 139° 32′ E 清澄）I種：本澤林道（標高35m～110m）、郷台林道（標高210m～280m）、猪ノ川林道（標高110m～210m）、II種：清澄41E（標高290m）。北演（43° 13′ N, 142° 23′ E 山部）I種：樹木園（標高230m）、108林班（神社山、標高300～360m）、12林班（標高680m～770m）、II種：なし。秩父（35° 56′ N, 138° 49′ E 小赤沢）I種：矢竹沢第2作業道（標高1,100m）、28林班大面積長期生態系プロット内（標高1,000～1,350m）、II種：影森苗畑（標高240m）、東谷林道（標高600～810m）、入川林道（標高1,040～1,250m）。生水（35° 12′ N, 137° 10′ E 白坂）I種・II種：65・67林班白坂量水堰堤・北谷南谷小流域（標高300～350m）。富士（35° 24′ N, 138° 52′ E）I種：全域（標高990～1,060m）、II種：なし。樹芸（34° 41′ N, 138° 51′ E 青野）I種：岩樟園林道（標高200～280m）、山下林道（標高130～250m）、クスノキ林歩道（標高200～280m）、II種：なし。田無（35° 44′ N, 139° 32′ E）I種：全域（標高60m）、II種：なし。

III. 季節性・繁殖状況および分類

各地方演習林における確認種の季節性と繁殖状況を表-1に示した。

季節性は5つのタイプに分類した。R：留鳥，1年を通して観察される種。S：夏鳥，主に夏期に観察される種。W：冬鳥，主に冬期に観察される種。P：旅鳥，主に春と秋の渡りの時期に観察される種。A：迷鳥，稀に観察された種。また，2008年7月以前に確認された種や，2004年3月以前の文献による確認種のうち，本期間には確認されていない種については，アルファベットを小文字で表記した。

繁殖確認は，営巣（産卵・育雛），幼鳥，成鳥の餌運び，古巣により行い，囀りだけの確認は，繁殖未確認とした。繁殖状況は3つのタイプに分類した。1：2008年8月以降に繁殖を確認した種。2：2008年7月以前に繁殖を確認した種。3：繁殖未確認種。

本報告における目・科・属・種名の配列・学名・英名・標準和名は，日本鳥類目録改訂第7版(2)によった。

IV. 各論

7つの地方演習林における、2014年8月まで記録数は、19日46科107属156種であった。各地方演習林の記録数は、次の通りである。千葉：17日37科73属93種。北演：15日40科81属115種。秩父：13日36科72属95種。生水：15日37科69属92種。富士：13日35科65属91種。樹芸：13日31科56属70種。田無：8日25科37属45種。前回報告よりも種数が減少している演習林もあるが、演習林周辺で確認できる種を含めていたことが原因であり、今回は演習林内で確認できる種のみをカウントした。

以下、主に2008年8月以降の確認種について、各地方演習林の鳥類生息状況を概説した。それ以前の確認種や、演習林周辺での確認種については、特筆すべき点がある場合にのみ記述した。樹芸と田無については、担当者不在のため省略した。

千葉演習林

キジ科

ヤマドリ：林内のほぼ全域で確認したが、特に郷台林道等の尾根沿いで目撃することが多かった。

カモ科

オシドリ：濁川堰（君津市）や坂本ダム（鴨川市）で確認した。2011年3月に清澄作業所に設置した大型巣箱を2012年4月より使い始めた。6月に、卵10個が孵化前にテンに襲われた。

カルガモ：2013年5月13日に、池ノ沢で巣と卵10個発見し、その後、メスの抱卵も確認した。しかし、2013年5月23日に、襲撃されたのか卵の殻が1つあるだけだった。

ハト科

キジバト：林内全域や天津事務所（以下、演習林全域）で確認できた。清澄構内では、つがいで確認した。

アオバト：以前は夏に囀りを聞くことが多かったが、2012年1月から3月頃まで、本沢林道ゲート前でつがいを頻繁に目撃するようになった。さらにドングリの貯食も録画した。

サギ科

ミゾゴイ：2008年4月22日に、清澄小屋ノ沢付近で初めて確認して撮影した。2012年8月24日に、池ノ沢の伐採土場で幼鳥を撮影した。いずれの写真も、日本鳥類標識協会により同定された。

アオサギ：猪ノ川林道や本沢林道等の沢沿いで確認した。

カッコウ科

ホトトギス：夏期に演習林全域で確認できた。朝早くから夕方まで囀りながら飛んでいた。

カッコウ：これまで周辺地域では確認されていたが、2013年5月27日に本沢林道の鍛冶坂トン

ネル付近で初めて囀りを確認した。

タカ科

トビ：天津事務所が港に近いことが原因と推測されるが、各作業所周辺よりも事務所上空で多く確認した。2011年・2012年には、天津事務所裏山で繁殖を確認した。

ツミ：2011年12月13日に、郷台宿舍内に迷い込んでいたのを捕獲して撮影した。2012年1月9日に、日本鳥類標識協会の同定で幼鳥と判明した。

サシバ：2009年3月2日に、川台でカラスを捕食していたところを発見して撮影した。2012年4月19日に新田で囀りを確認した。

フクロウ科

フクロウ：2012年5月4日に、札幌作業所で山階鳥類研究所が標識を付けた。

カワセミ科

カワセミ：2013年4月11日と5月24日に、本沢林道の坂本ダムで確認した。

キツツキ科

コゲラ：林内全域で確認できたが、2014年2月の雪害跡地等では特に多くみられた。2011年8月7日に、本沢林道・武者戸で山階鳥類研究所が幼鳥または若鳥に標識を付けた。

カササギヒタキ科

サンコウチョウ：本沢林道（坂本ダム周辺）や猪ノ川林道（小屋ノ沢土場周辺）で確認した。近年、巣は確認できていない。2011年7月17日に、本沢林道・武者戸で山階鳥類研究所が標識を付けた。

カラス科

カケス：林内で確認できた。時期外れにサシバの囀りを真似ていた。繁殖は確認していない。写真は撮れなかった。2011年3月27日に、大仙場林道で山階鳥類研究所が標識を付けた。

ハシボソガラス・ハシブトガラス：演習林内で確認できたが、繁殖は確認できなかった。

シジュウカラ科

ヤマガラ：林内で確認できた。林内の巣箱では、2012年度と2013年度以外は営巣を確認した。2011年4月16日に、大仙場林道で山階鳥類研究所が標識を付けた。

シジュウカラ：演習林全域で確認できた。清澄構内に設置した巣箱で繁殖を確認した。2011年6月19日に、大仙場林道で山階鳥類研究所が幼鳥または若鳥に標識を付けた。

ツバメ科

ツバメ：夏期に天津事務所や清澄作業所構内で確認できた。

ヒヨドリ科

ヒヨドリ：演習林全域で確認できたが、繁殖の確認はできなかった。2011年7月18日に、本沢林道・武者戸で山階鳥類研究所が幼鳥または若鳥に標識を付けた。

ウグイス科

ウグイス：演習林全域で確認できた。夏期以外は姿を確認しづらいが、繁殖期になると桜の木の上層等で確認できた。本調査報告期間中、繁殖の確認はできなかった。2011年3月27日に、大仙場林道で山階鳥類研究所が標識を付けた。

ヤブサメ：林内全域で囀りを確認できた。2013年6月7日に、本沢林道で口いっぱい餌をほおばり鳴いていた。同時に2個体を確認した。

エナガ科

エナガ：林内のほぼ全域で確認したが、繁殖は確認できなかった。

ムシクイ科

エゾムシクイ：近年確認できていなかったが、2013年5月15日21:00頃に相ノ沢竹林方面で囀りを確認した。

センダイムシクイ：猪ノ川林道沿いで囀りを確認できたが、姿は確認できなかった。繁殖は確認できなかった。

メジロ科

メジロ：林内全域で確認できたが、営巣しているところは確認できなかった。古巣は見つかるので、繁殖はしているものと推測された。2010年12月5日に、大仙場林道で山階鳥類研究所が幼鳥または若鳥に標識を付けた。

レンジャク科

ヒレンジャク：演習林周辺では何度か確認していたが、2013年4月12日清澄構内で数年ぶりに演習林内でも確認した。

ミソサザイ科

ミソサザイ：猪ノ川林道沿いや大仙場林道沿いで確認できた。2009年3月29日に、黒塚歩道で囀りを確認した。2010年12月4日に、大仙場林道で山階鳥類研究所が幼鳥または若鳥に標識を付けた。2012年3月27日に、中ノ背歩道XXF 5で囀りを確認した。2012年6月1日に、新田で囀りを確認した。多数観察されるものの、繁殖は確認できなかった。

ムクドリ科

ムクドリ：林内では確認できなかったが、天津事務所周辺の職員宿舎等では集団で確認できた。繁殖は確認できなかった。

ヒタキ科

トラツグミ：目撃回数は少なく、2012年1月に確認できたのみである。囀りの確認がほとんどであった。

クロツグミ：ほとんどが囀りのみの確認であり、営巣は確認されなかった。

シロハラ：冬期に暗い場所で確認することが多く、2012年2月24日に清澄構内で撮影した。

2010年12月26日に、猪ノ川林道で山階鳥類研究所が幼鳥または若鳥に標識を付けた。

アカハラ：林内等の暗い場所では姿をみることが少ないが、開けた場所や清澄作業所周辺の林縁部で、観察も撮影もできた。

ツグミ：冬期に開けた場所や清澄作業所構内や周辺駐車場で確認した。2012年2月27日に清澄構内で撮影した。

コルリ：2010年5月11日14:00頃に清澄作業所構内で幼鳥と思われる死体を発見し冷凍保存した。それ以外では確認できなかった。

ルリビタキ：目撃することはほとんどなく、近年では2009年1月21日にオスを確認したのみである。

ジョウビタキ：冬期に札郷作業所や清澄作業所構内等でオスを確認したが、メスはほとんど確認できなかった。しかし、2014年2月12日に清澄作業所構内でメスの死体を発見して冷凍保存した。

イソヒヨドリ：林内での確認はまれで、天津事務所周辺で確認できた。

キビタキ：2011年6月18日に、大仙場林道で山階鳥類研究所が標識を付けた。翌6月19日に幼鳥を捕獲したので、繁殖しているものとして扱った。

オオルリ：夏期に各所で囀りが聞こえ、特に猪ノ川林道沿い・本沢林道沿いで確認できた。2011年6月18日に、大仙場林道で山階鳥類研究所が幼鳥または若鳥に標識を付けた。

セキレイ科

キセキレイ：清澄作業所構内・猪ノ川林道沿い・本沢林道沿いで確認できた。重機等に巣作りをするので巣や卵も確認された。2010年12月25日に、猪ノ川林道で山階鳥類研究所が標識を付けた。

ハクセキレイ：猪ノ川林道や本沢林道で確認したが、繁殖は確認できなかった。

アトリ科

アトリ：2012年1月31日に、橋ノ沢で30個体ぐらいの小群を確認した。

カワラヒワ：札郷作業所周辺や天津事務所周辺で確認したが、繁殖は確認できなかった。

マヒワ：群れで行動しているようだが出会うことが少なかった。清澄管内と札郷作業所でみかける程度であった。2012年10月8日に、東ノ沢入口で2個体確認した。

ホオジロ科

ホオジロ：演習林全域で確認できた。2012年5月5日に本沢林道・武者戸で山階鳥類研究所が標識を付けた。

カシラダカ：あまり確認できなかったが、冬期に少数の群れを仙石林道や本沢林道で確認した。2009年4月2日に清澄作業所構内で確認した。

アオジ：各所の林縁部や林道でイズセンリョウ等の低木の茂みに、少数の群れで確認した。

クロジ：薄暗いスギ，ヒノキ林内で地鳴きを確認したが，明るい所に出てこないため，姿を確認することは少なかった。2010年12月26日に，猪ノ川林道で山階鳥類研究所が幼鳥または若鳥に標識を付けた。

外来種

キジ科

コジュケイ：札郷作業所・天津事務所周辺で親子連れを確認した。2012年7月23日に，天津職員宿舎で巣と雛6個体を確認した。

北海道演習林

キジ科

エゾライチョウ：林内全域（樹木園や神社山は稀）で確認できたが，冬期における目撃回数は少なかった。

カモ科

コハクチョウ・オオハクチョウ：渡りの時期に上空を通過し，稀に空知川でみかけたこともあるが，富良野地方での越冬は確認できなかった。

オシドリ：夏期に本沢ゲート横の頭首工や26林班で確認した。演習林外の鳥沼公園池では繁殖を確認した。

マガモ：冬期に西達布川・東郷ダム・樹木園で確認した。演習林外の鳥沼公園池では，多数が越冬した。

カルガモ：2012年6月に東郷ダムで繁殖を確認したが，目撃回数は少なかった。

コガモ：2012年2月に本沢ゲート横の頭首工で小群を確認した。

カワアイサ：2010年6月に本沢ゲート横の頭首工で，メス1個体を確認した。

ハト科

キジバト：夏期に林内全域で確認できた。

アオバト：夏期に平地から高標高地まで広い範囲で囀りを確認できたが，姿を目撃することは少なかった。

サギ科

アオサギ：夏期に本沢・空知川・老節布川の河川沿いで確認できた。樹木園では池や上空を通過する姿も確認できた。

カッコウ科

ジュウイチ：夏期に74林班および12林班で確認した。

ツツドリ：夏期に林内全域で囀りを確認できた。2009年8月に10林班の林道上で幼鳥を確認した。

カッコウ：夏期に林内全域および演習林周辺の農地で、主に囀りを確認できた。

ヨタカ科

ヨタカ：夏期に営巣を2例確認し、2011年と2012年に59林班A小班のほぼ同地において繁殖を確認したが、姿を目撃することは少なかった。

アマツバメ科

ハリオアマツバメ：夏期に高標高地で飛翔する姿を確認した。

シギ科

ヤマシギ：夏期に天然林内で確認できた。

アオシギ：2011年2月に、麓郷セミナーハウスの小沢で確認した。

オオジシギ：夏期に樹木園で確認したほか、麓郷や平沢地区の農地や牧草地から飛来する個体の上空通過が確認した。

イソシギ：演習林内での確認はしばらくはないが、2013年夏期に、演習林沿いの布部川で目撃した。

ミサゴ科

ミサゴ：2009年夏期に本沢ゲートの上空で確認したほか、2013年東郷ダム周辺で営巣も確認した。

タカ科

トビ：林内も含め富良野地方全般で確認できたが、厳冬期にはあまりみかけなくなった。

オジロワシ：冬期に西達布川・岩魚沢・布部川・樹木園で確認した。

オオワシ：冬期にオジロワシ同様、河川や樹木園で確認できたが、オジロワシより飛来数は少なかった。

オオタカ：樹木園でしばしば営巣が確認され、毎回2個体の巣立ちを確認したが、厳冬期にはあまりみかけなくなった。

ノスリ：通年、富良野地方ではトビに次いでよく確認できた。

クマタカ：通年、西達布川・三の山地区・東山地区・樹木園で確認できた。

フクロウ科

フクロウ：通年、林内の広い範囲で確認できたが、目撃回数は少なかった。

カワセミ科

カワセミ：夏期に樹木園池で確認できた。獲物を足場の鉄柱に数回叩きつけてから呑み込む行動を確認した。

ヤマセミ：通年、西達布川上流部や本沢で確認したが、目撃回数は極めて少なかった。

キツツキ科

コゲラ：通年、低標高地から高標高地まで広い範囲でよくみられ、樹洞を掘る姿が確認できた。

オオアカゲラ：通年，樹木園・52林班・74林班の低標高地で確認したが，アカゲラに比べると目撃回数は少なかった。

アカゲラ・クマゲラ：通年，林内全域で確認できた。

ヤマゲラ：通年，低標高地・樹木園・山部庁舎で確認できた。

ハヤブサ科

チゴハヤブサ：夏期，樹木園や演習林外の麓郷市街地で確認できた。

モズ科

モズ：夏期，樹木園や山部庁舎で確認できた。

オオモズ：2010年2月に麓郷セミナーハウスで確認した。

カラス科

カケス：通年，高山帯を除く広い範囲で確認できた。

ホシガラス：通年，大麓山周辺のハイマツ帯等高山帯で確認できた。

ハシボソガラス・ハシブトガラス：通年，林内全域で確認できた。

ククイタダキ科

ククイタダキ：通年，林内全域で確認できた。

シジュウカラ科

ハシブトガラ・コガラ：通年，ハイマツ帯を除く広い範囲で確認できたが，姿・鳴き声共に両種の識別が困難であった。

ヤマガラ：通年，低標高地で確認できたが，目撃回数は少なかった。

ヒガラ：通年，林内全域で確認できたが，高標高地でみかけることが多かった。

シジュウカラ：通年，低標高地で確認できたが，目撃回数は少なかった。

ヒバリ科

ヒバリ：夏期，樹木園の苗畑や上空で確認できたほか，演習林周辺の農地や牧草地でも確認した。

イワツバメ：夏期，樹木園上空で確認した。富良野地方ではよく目撃するツバメ類である。

ヒヨドリ科

ヒヨドリ：通年，林内全域で確認できた。

ウグイス科

ウグイス：夏期，平地から大麓山まで広い範囲で囀りを確認できたが，姿を目撃することは少なかった。

ヤブサメ：夏期，低標高地の藪の中で確認できたが，12林班等高標高地の目撃回数も増えている。

エナガ科

エナガ：通年，群れで行動する様子を林内の広い範囲で確認した。カラ類やコゲラと混群を形成することもあった。

ムシクイ科

エゾムシクイ：夏期，低標高地から高標高地の林内で確認できた。

センダイムシクイ：夏期，高山帯を除く林内の広い範囲で確認できた。

メジロ科

メジロ：夏期，樹木園や神社山で確認できたが，目撃回数は少なかった。

レンジャク科

キレンジャク：ほぼ例年冬期に，樹木園のカンボクの実を群れで食べる姿を確認できたが，2013年3月，75林班E小班のカラマツ等針葉樹林で小群を成す姿も確認した。

ヒレンジャク：冬期，樹木園のカンボクの実を群れで食べる姿を確認した。キレンジャクと混群を形成することもあったが，飛来数はキレンジャクに比べてやや少なかった。

ゴジュウカラ科

ゴジュウカラ：通年，低標高地からハイマツ帯までの広い範囲で確認できた。

キバシリ科

キバシリ：通年，低標高地から高標高地の林内で確認できた。

ミソサザイ科

ミソサザイ：通年，林内や溪流沿いで確認できた。

ムクドリ科

ムクドリ：夏期，樹木園や山部市街地で確認できたが，林内で目撃することはなかった。

コムクドリ：夏期，山部庁舎や51林班で確認したが，林内で目撃することは極めて少なかった。

カワガラス科

カワガラス：通年，溪流沿いで確認できた。

ヒタキ科

マミジロ：2013年6月に12林班で確認したが，目撃回数は極めて少なく，ほかのツグミ類に比べると生息数は少なかった。

トラツグミ：夏期，林内全域で主に囀りを確認できたが，姿を目撃することは少なかった。

クロツグミ：夏期，平地や低標高地の林内で確認できた。

マミチャジナイ：2011年11月に旧東山作業所で確認したが，目撃回数は極めて少なかった。

シロハラ：2013年5月に樹木園で，クロツグミ・アカハラらと地上で何かをついばむ姿を目撃した。

アカハラ：夏期，低標高地から高標高地の林内で確認できた。

ツグミ：冬期に樹木園で確認した。演習林周辺の街路樹（ナナカマド）に，ヒヨドリ・ヒレン

ジャク・キレンジャク・シメ等と大群を形成している姿も目撃した。

コマドリ：夏期，高標高地や溪流沿いで主に囀りを確認できたが，樹木園や神社山等低標高地でも稀に確認した。

ノゴマ：2013年7月に大麓山の自動撮影調査で確認した。

コルリ：夏期，低標高地から高標高地の広い範囲で主に囀りを確認できたが，姿を目撃することは少なかった。

ルリビタキ：夏期，高標高地の林内やハイマツ帯等で主に囀りを確認できたが，姿を目撃することは少なかった。

イソヒヨドリ：2010年5月に山部庁舎で確認した。

サメビタキ：夏期，低標高地から高標高地の林内で確認できたが，目撃回数は少なかった。

コサメビタキ：夏期，低標高地から高標高地の林内で確認できた。

キビタキ：夏期，高山帯を除く林内全域で確認できた。しばしばクマガラの鳴き真似を行った。

オオルリ：夏期，林内の溪流沿いや神社山で確認できた。

イワヒバリ科

カヤクグリ：2013年6月に大麓山の自動撮影調査で確認した。

スズメ科

ニュウナイスズメ：夏期，樹木園の施設周辺で確認できたが，林内で目撃することは極めて少なかった。

スズメ：通年，樹木園や山部庁舎で確認できたが，厳冬期にはあまりみられなくなった。

セキレイ科

キセキレイ：夏期，老節布川流域・一見沢・樹木園で確認できた。2013年5月に，樹木園ビニールハウスのコンテナ苗で営巣（5個体巣立ち）を確認した。

ハクセキレイ：夏期，低標高地の溪流沿い・樹木園・山部市街地で確認できたが，冬期にも樹木園や68林班等で目撃しており，一部が越冬していると推測された。

セグロセキレイ：夏期，2013年5月に樹木園の床替床で営巣を確認し，冬期にも目撃しており，一部が越冬していると推測された。

ビンズイ：夏期，12林班で確認できたが，目撃回数は少なかった。

アトリ科

アトリ：冬期，樹木園や103林班で小群を確認できたが，目撃回数は少なかった。

カワラヒワ：夏期，低標高地から高標高地の広い範囲で確認できた。

マヒワ：通年，山部庁舎や樹木園等低標高地で小群を確認できたが，夏期には12林班等高標高地でみかけるようになった。

ベニヒワ：2013年12月に樹木園で約50個体の群れを確認した。

コベニヒワ：2014年3月に樹木園で確認した。

ベニマシコ：夏期，樹木園で確認できた。

ギンザンマシコ：通年，大麓山周辺のハイマツ帯や高標高地で確認した。2013年6月に大麓山の自動撮影調査でも確認した。

イスカ：冬期や春先に樹木園等低標高地でよく確認できたが，夏期には12林班等高標高地でみられるようになった。

ウソ：冬期に樹木園や低標高地の林内で確認できたが，夏期には高標高地の林内でみられるようになった。

シメ：通年，樹木園や低標高地の林内で確認できた。

イカル：夏期，樹木園や低標高地の林内で，小群で行動する姿が確認できた。

ホオジロ科

ホオジロ：夏期，樹木園の苗畑で確認できた。演習林周辺の農地や牧草地でも目撃することが多かった。

ミヤマホオジロ：2011年11月に山部庁舎で確認したが，目撃回数は極めて少なく，林内で確認したことはなかった。

アオジ：夏期，低標高地から高標高地まで林内の広い範囲で確認できた。

クロジ：夏期，低標高地から高標高地まで林内の広い範囲で囀りを確認できたが，姿を目撃することは少なかった。

秩父演習林

キジ科

ヤマドリ：林内全域でドラミングが聞こえた。2010年6月に，木馬道でメスが幼鳥4個体を連れて歩いているところを確認した。

キジ：2012年に，影森苗畑の周辺で地鳴きを確認した。

カモ科

オシドリ：2011年に川俣地区で確認した。

マガモ：2012年2月に，中山沢モノレール下で，つがい3組を確認した。

ハト科

キジバト：冬期以外に林内道路沿いと，年間を通して日野田事務所と影森苗畑で確認できた。

アオバト：夏期に林内全域で確認できた。

カッコウ科

ジュウイチ・ツツドリ：夏期に林内全域で確認できた。

ホトトギス：夏期に林内全域と影森苗畑で確認できた。

ヨタカ科

ヨタカ：伐採跡地・新植地・林内道路沿いで確認した。2012年7月には、3い30の新植地で、成鳥と卵2つを確認した。

シギ科

ハイロヒレアシギ：2011年12月に、栃本作業所構内で確認した。

タカ科

トビ：林内道路沿いで確認した。2011年には、樹木園シカ柵に幼鳥がかかっていた。

ハイタカ：2010年に突出峠での標識調査で捕獲した。2011年6月・2013年4月に影森苗畑、2013年11月に入川林道で確認した。

オオタカ：2013年5月に、影森苗畑で確認した。

サシバ：2013年5月に29い24で確認した。

ノスリ：2013年3月に赤沢で確認した。

クマタカ：林内道路沿いで確認できた。

フクロウ科

コノハズク：夏期に林内全域で確認できた。

フクロウ：突出峠・パイロット道路・影森苗畑で確認できた。

アオバズク：夏期に影森苗畑で確認できた。

カワセミ科

ヤマセミ：2012年6月に、演習林外の河川で確認した。

アカショウビン：29い7で確認した。

キツツキ科

コゲラ・アオゲラ：林内全域のほか、日野田事務所や影森苗畑（以下、演習林全域）で確認できた。

オオアカゲラ：2011年5月に、29い3ケヤキ人工林で餌運びを確認した。

アカゲラ：林内全域で確認できた。

モズ科

モズ：日野田事務所や影森苗畑で確認できた。

カラス科

カケス：林内全域で確認できた。2008年には、トヤ尾根で幼鳥を確認した。

オナガ・ハシボソガラス：日野田事務所や影森苗畑で確認できた。

ホシガラス：2010年10月に、小赤沢で確認した。

ハシブトガラス：林内全域で確認できた。

キクイタダキ科

キクイタダキ：林内全域で確認できた。

シジュウカラ科

コガラ：林内全域で確認できた。2011年6月に、27林班は1で、成鳥が幼鳥に給餌しているところを確認した。

ヤマガラ：林内全域確認できた。入川林道沿いの巣箱に営巣した。

ヒガラ：林内全域で確認できた。2009年8月に、木馬道で幼鳥を確認した。

シジュウカラ：演習林全域で確認できた。入川林道沿いや影森宿舎の巣箱に営巣した。

ツバメ科

ツバメ：夏期に日野田事務所や影森苗畑で確認できた。その周囲では営巣する姿が確認できた。

イワツバメ：夏期に影森宿舎そばの押堀川で確認できた。

ヒヨドリ科

ヒヨドリ：演習林全域で確認できた。

ウグイス科

ウグイス：近年のスズタケの衰退により、林内の広い地域で確認頻度が減少したが、高標高でスズタケが残っている地域や、日野田事務所・影森苗畑では確認できた。

ヤブサメ：近年確認頻度が減少しているが、夏期に木馬道・高平で確認できた。

エナガ科

エナガ：林内全域で確認できた。

ムシクイ科

メボソムシクイ：突出峠で確認できた。

エゾムシクイ：高平・突出峠・白泰山で確認できた。

センダイムシクイ：林内全域で確認できた。

メジロ科

メジロ：第2作業道・日野田事務所・影森苗畑で確認できた。

ゴジュウカラ科

ゴジュウカラ：林内全域で確認できた。

キバシリ科

キバシリ：27・28林班で確認できた。

ミソサザイ科

ミソサザイ：林内全域の谷部で確認できた。

ムクドリ科

ムクドリ：日野田事務所・影森苗畑で確認できた。

カワガラス科

カワガラス：入川・滝川・東谷で確認できた。

ヒタキ科

マミジロ：矢竹沢・27林班ろ2・突出峠で確認した。

トラツグミ：林内全域で確認できた。

クロツグミ：27林班で確認した。

シロハラ：冬期に、29い4・影森苗畑で確認した。

アカハラ：木馬道や入川林道を歩く姿を確認した。2010年6月に、木馬道でオスの囀り合いを確認した。

ツグミ：冬期に演習林全域で確認できた。

コマドリ：突出峠・入川軌道で確認できた。

ノゴマ：2010年に、突出峠の標識調査で初確認した。

コルリ：夏期に林内全域で確認できた。

ルリビタキ：林内全域で確認できた。夏期には高標高地で囀りが聞こえた。

ジョウビタキ：冬期に入川林道・日野田事務所・影森苗畑で確認できた。

コサメビタキ：2013年4月、木馬道で確認した。

キビタキ：夏期に演習林全域で確認できた。

オオルリ：夏期に林内全域で確認できた。

イワヒバリ科

イワヒバリ：2012年冬期、入川林道沿いで確認した。

カヤクグリ：林内道路沿いで確認した。

スズメ科

スズメ：日野田事務所や影森苗畑で確認できた。

セキレイ科

キセキレイ：夏期に入川・東谷で確認できた。

ハクセキレイ：日野田事務所や影森苗畑で確認できた。

ビンズイ：2012年5月に高平で確認した。

アトリ科

アトリ：冬期に、林内全域で群が確認できた。

カワラヒワ：日野田事務所や影森苗畑で確認できた。

ウソ：夏期には高標高地で、冬期には林内道路沿いや影森苗畑で確認できた。

シメ：2012年11月、日野田事務所確認した。

イカル：林内全域や影森苗畑で確認できた。

ホオジロ科

ホオジロ：林内道路沿い・日野田事務所・影森苗畑で確認できた。

カシラダカ：27林班で、冬期に群れが確認できた。

アオジ：2012年冬期に影森苗畑で確認した。

クロジ：突出岬・白泰山等高標高地で確認できた。

外来種

チメドリ科

ガビチョウ：林内の低標高地・日野田事務所・影森苗畑で確認できた。突出岬でも数回確認した。

ソウシチョウ：林内全域で確認できたが、スズタケの衰退により減少傾向にある。

生態水文学研究所

キジ科

ヤマドリ：赤津で確認した。赤津と犬山では自動撮影調査でも確認した。

カモ科

カルガモ：目撃による確認はないが、穴の宮と犬山14林班の自動撮影調査で確認した。

ハト科

キジバト：全域で確認できた。

アオバト：これまで夏鳥としていたが⁽¹⁾、赤津において冬期（2009年12月、2013年3月、2014年1月）に確認したため、本報告では留鳥とした。

サギ科

ミゾゴイ：これまでは確認できなかったが⁽¹⁾、赤津での自動撮影調査で頻繁に撮影して確認できた。

アオサギ：目撃による確認はないが、穴の宮での自動撮影調査で撮影した。

カッコウ科

ツツドリ・ホトトギス：ともに赤津で囀りを確認できた。毎年、ツツドリの方がホトトギスよりも早く渡来した。

ヨタカ科

ヨタカ：赤津で確認できた。夜間の音声録音調査でも頻繁に囀りを確認できた。

シギ科

ヤマシギ：目撃による確認はないが、赤津・穴の宮・犬山の自動撮影調査で確認した。

タカ科

トビ：赤津で確認した。目撃する機会は少なかった。

オオタカ：2009年5月に赤津、2012年5月に犬山で確認した。

サシバ：2009年6月に、赤津で確認した。

ノスリ：赤津で確認できた。

フクロウ科

オオコノハズク：2013年2月に、赤津の自動撮影調査で確認した。

フクロウ：赤津と穴の宮で確認した。赤津では音声録音調査でも確認した。穴の宮では2012年中が空洞になった枯れ木の根元で繁殖しているのを確認して、これ以降3年続けて同じ木で繁殖した。

カワセミ科

アカショウビン：2013年6月に、赤津の白藤川沿いで早朝に2個体で鳴き交わしているところを確認した。

キツツキ科

コゲラ・アオゲラ：赤津で確認できたが、いずれも繁殖の確認はできなかった。

アカゲラ：赤津で確認できたが、先の2種に比べると目撃の機会は少なかった。

サンショウクイ科

サンショウクイ：夏期に、赤津で毎年確認できた。

カササギヒタキ科

サンコウチョウ：目撃回数は少ないものの、毎年夏期に赤津で囀りを確認できた。

モズ科

モズ：目撃回数は少ないが、赤津の宿泊施設周辺で確認した。

カラス科

カケス：赤津や犬山で通年確認できた。

ハシボソガラス：赤津、穴の宮、犬山で確認できた。

ハシブトガラス：赤津で確認できた。その観察頻度はハシボソガラスと比べて高かった。

シジュウカラ科

ヒガラ：赤津で確認したが、目撃回数は少なかった。

ヤマガラ・シジュウカラ：赤津の巣箱で毎年繁殖しており、その繁殖状況を長期間調査している(3)。両種は穴の宮、犬山でも確認できた。

ヒヨドリ科

ヒヨドリ：通年、五位塚事務所構内を含む全域で確認できた。個体数も多かった。

ウグイス科

ウグイス：赤津で確認できた。古巣らしきものも確認しており、繁殖の可能性が高いと推測された。

ヤブサメ：前回報告(1)では渡来数の減少を危惧していたが、確認数はあまり多くはないものの、

毎年赤津で確認できた。

エナガ科

エナガ：林内全域で確認できた。

ムシクイ科

センダイムシクイ：赤津で囀りを確認できた。

メジロ科

メジロ：林内全域で確認できた。春には五位塚事務所構内の桜の木で確認できた。

ミソサザイ科

ミソサザイ：赤津で確認したが、目撃回数は少なかった。

カワガラス科

カワガラス：白坂量水堰堤周辺で稀に確認した。

ヒタキ科

マミジロ：2013年5月に、赤津の自動撮影調査で確認した。

トラツグミ：目撃回数は少ないものの、音声録音調査や自動撮影調査では、通年全域で確認した。

クロツグミ：夏期に赤津で囀りを確認した。

アカハラ：2013年4月に、穴の宮の自動撮影調査で確認した。

シロハラ：赤津で確認できた。穴の宮でも自動撮影調査で確認した。

ツグミ：渡来数に年変動があるものの、林内で目撃することはあまりなかった。

ルリビタキ：冬期に赤津で確認できた。穴の宮でも自動撮影調査で確認した。

ジョウビタキ：冬期に赤津と五位塚事務所構内で確認した。

コサメビタキ：2010年5月に、赤津で確認した。

キビタキ：夏期に赤津で頻繁に姿や囀りを確認できたが、繁殖は確認できなかった。

オオルリ：夏期に赤津や犬山で囀りを確認できた。2010年に赤津で繁殖を確認した。

スズメ科

スズメ：赤津で稀に確認した。五位塚事務所構内で確認できた。

セキレイ科

キセキレイ：赤津の白坂量水堰付近で確認できた。

ハクセキレイ：林内での確認はなかったが、五位塚事務所構内で確認した。

ビンズイ：2010年4月に、赤津の小長曾窯跡周辺で確認した。

アトリ科

カワラヒワ：通年、赤津で確認できた。

マヒワ：2009年1月と4月に群れを確認した。

ウソ：冬期に赤津で数例確認した。

イカル：通年，赤津で確認できた。

ホオジロ科

ホオジロ：赤津の苗畑で頻繁に確認できた。犬山でも囀りを確認できた。

アオジ：冬から春先に数個体確認した。赤津と穴の宮では自動撮影調査で確認した。

外来種

キジ科

コジュケイ：赤津や五位塚事務所構内で囀りを確認できた。穴の宮では自動撮影調査で確認した。

チメドリ科

ソウシチョウ：2013年4月に，赤津宿泊施設の駐車場近くで数個体を初めて確認した。

富士癒しの森研究所

キジ科

キジ：繁殖記録があるが(4)，前回報告(1)や，本報告調査期間では確認できなかった。

カモ科

カルガモ：2012年5月，湖畔広場の湖畔近くで確認した。2011年には，台風の影響で増水し湖畔広場が一部水没した時期があったが，同年9月24日にマガモのエクリプス8個体とカルガモ1個体を確認した。

ヒドリガモ・マガモ・カルガモ・コガモ・ホシハジロ・キンクロハジロ・カワアイサ：冬期に山中湖湖上や湖畔で確認した。

マガモ・ホシハジロ：冬期に山中湖湖上や湖畔で100個体以上確認した。

オオハクチョウ・ヨシガモ・オナガガモ・ホオジロガモ・ミコアイサ：山中湖湖上での確認記録がある(4)。

コブハクチョウ：周辺で放し飼いにされており，毎年幼鳥を確認できた。

カイツブリ科

ハジロカイツブリ：2010年11月27日，2012年12月10日，2013年11月18日に山中湖湖上で確認した。

アカエリカイツブリ：周辺での確認記録がある(4)。

ハト科

キジバト：林内全域で確認できた。

アオバト：夏期に囀りを確認した。1～2個体もしくは5～6個体の群れを確認した。

ウ科

カワウ：山中湖湖上や湖畔で確認できた。1～2個体で確認することが多いが、2014年1月25日は、湖畔の栈橋で19個体の群れを確認した。

サギ科

アオサギ・ダイサギ：2012年5月、湖畔広場周辺のアカマツ樹上でアオサギ2個体、ダイサギ1個体を確認した。

ゴイサギ・ササゴイ・コサギ：周辺での確認記録がある(4)。

クイナ科

オオバン：冬期、山中湖湖上、湖畔で多数確認できた。100個体以上確認したこともある。

カッコウ科

ホトトギス・カッコウ：林内で、繁殖期に囀りで確認できた。稀に姿を目撃した。

ツツドリ：2013年5月に囀りで確認した。

アマツバメ科

アマツバメ：2011年7月27日に、自炊宿舎付近の上空を飛翔する姿を確認した。

シギ科

イソシギ：周辺での確認記録がある(4)。

カモメ科

ユリカモメ・ウミネコ・アジサシ：周辺での確認記録がある(4)。

ミサゴ科

ミサゴ：2013年2月3日に、山中寮上空で魚を脚で掴んで飛翔する姿を確認した。

タカ科

トビ：通年、林内全域で確認できた。

ハイタカ：2010年に営巣を確認した。4個体の雛が巣立った。その後は繁殖の確認はなく、確認個体数も減った。2013年4月には、I林班で一度だけ1個体を確認した。

オオタカ：2009年12月に、I林班で確認したが、個体数が少なく、周辺上空をハシブトガラスにモビングされて飛翔している姿を稀に確認した。

ハチクマ・ツミ・サシバ・ノスリ：確認記録がある(4)。

フクロウ科

フクロウ：夏期、林内において、地鳴きや姿を確認した。冬期は、周辺で地鳴きが確認された。個体数は少なかった。

カワセミ科

ヤマセミ：周辺での確認記録がある(4)。

キツツキ科

コゲラ・アカゲラ・アオゲラ：通年、林内全域で確認できた。

アカゲラ：2013年5月に営巣を確認，6月には幼鳥を確認した。

オオアカゲラ：周辺での確認記録がある(4)。

モズ科

モズ：秋から春先にかけて，I林班で確認できた。2014年1月14日に，事務所脇の垣根の枝にシジュウカラのはやにえと，それを持ち去るメスの個体を確認した。

チゴモズ・アカモズ：文献に確認記録がある(4)。

カラス科

カケス・ハシブトガラス：通年，林内で確認できた。

オナガ・ハシボソガラス：個体数が少なく，不定期に確認した。

ホシガラス：確認記録がある(4)。

キクイタダキ科

キクイタダキ：個体数は少ないが，通年，林内全域で確認した。

シジュウカラ科

コガラ・ヤマガラ・ヒガラ・シジュウカラ：通年，林内全域で確認できる。繁殖期後半には，シジュウカラの幼鳥を多数確認した。

ツバメ科

ツバメ：夏期に上空を飛翔していたところを確認した。営巣は山中湖村旧市街地で確認記録がある(4)。

ヒヨドリ科

ヒヨドリ：通年，林内全域で確認できる。周辺では，2013年8月6日，成鳥が幼鳥に給餌している姿を確認した。

ウグイス科

ウグイス：夏期，林内全域で確認できた。冬期の確認記録もある(4)。

ヤブサメ：確認記録がある(4)。

エナガ科

エナガ：通年，林内全域で確認できた。

ムシクイ科

メボソムシクイ：2009年5月と2013年5月に囀りを確認したのみで，渡りの移動途中と推測された。

センダイムシクイ：4月頃から夏期の間，林内全域で確認できた。

エゾムシクイ：確認記録がある(4)。

メジロ科

メジロ：通年，林内全域で確認できた。2009年6月18日，巣立ちから間もない幼鳥2個体と給

餌する成鳥を事務所付近で確認した。

レンジャク科

キレンジャク：周辺での確認記録がある(4)。

ゴジュウカラ科

ゴジュウカラ：個体数は少ないが、通年、林内全域で確認した。

ミソサザイ科

ミソサザイ：2009年5月26日、2010年2月4日、2011年4月14日に姿を確認した。確認場所は林内全域で、周辺でも確認した。個体数が少なく、囀りの確認はなかった。

ムクドリ科

ムクドリ：夏期にⅡ林班で確認した。

コムクドリ：夏期に渡来し、林内全域で確認できた。

ヒタキ科

クログミ：夏期に林内全域で確認できた。

シロハラ：冬期に確認したが、個体数が少なく、確認できない年もあった。

ツグミ：冬期に林内全域で確認できた。

マミジロ・トラツグミ・アカハラ：確認記録がある(4)。

コルリ：2013年4月9日に、Ⅲ林班で囀りを確認した。同年4月26日に、Ⅰ林班で目撃したが、個体数は少なかった。

ルリビタキ：冬期に林内全域で確認した、2013年度は確認できなかった。

ジョウビタキ：冬期に林内全域で確認できた。

コサメビタキ：夏期に林内全域で確認できた。2013年6月28日に、Ⅰ林班で幼鳥を確認した。

キビタキ：夏期に林内全域で確認できた。2013年6月28日に、Ⅲ林班で成鳥が幼鳥に給餌しているところを確認した。

エゾビタキ・サメビタキ：確認記録がある(4)。

イワヒバリ科

カヤクグリ：確認記録がある(4)。

スズメ科

スズメ：Ⅰ、Ⅱ林班で確認した。

セキレイ科

キセキレイ：2013年6月にⅠ林班で確認した。

ハクセキレイ：2010年2月、2011年4月に事務所周辺や馬場で確認した。

セグロセキレイ：2012年12月に事務所周辺で確認した。

ビンズイ：確認記録がある(4)。

タヒバリ：2013年11月18日に、周辺の湖畔で2個体確認した。

アトリ科

アトリ：2010年3月5日に事務所周辺で、同年4月14日にⅡ林班で確認した。

カワラヒワ：通年、林内全域で確認できた。

マヒワ：確認記録がある(4)。

オオマシコ：周辺での確認記録がある(4)。

ベニマシコ：周辺で2013年2月28日に1個体、同年11月28日に2個体を確認した。

ウソ：冬期に確認したが、確認できない年もあった。

アカウソ：2013年2月22日に事務所周辺で確認した。

シメ：冬期に事務所周辺で確認できた。

イカル：通年、林内全域で確認できた。

ホオジロ科

ホオジロ：通年、林内全域で確認した。2010年6月16日に、巣立って間もない幼鳥3個体が地面や倒木の上にじっとしている姿をⅢ林班で確認した。

カシラダカ：冬期に事務所周辺や湖畔広場等開けた地上で、2個体から30個体ほどの群れで確認した。

ノジコ：夏期に林内全域で確認できた。

ミヤマホオジロ・アオジ・クロジ：確認記録がある(4)。

外来種

キジ科

コジュケイ：2012年5月と2013年5月に確認した。個体数は少ない。

チメドリ科

ガビチョウ：2008年10月10日に地鳴きを確認した。

ソウシチョウ：2010年6月2日にⅢ林班でつがいを確認した。同年7月15日には同じ場所でウグイス・メジロ・ヒガラを巻き込む縄張り争いを確認した。2011年9月と2013年8月にも、Ⅲ林班で確認した。

引用文献

- 1) 東京大学演習林鳥類研究会 (2009) 東京大学演習林鳥類目録. 演習林48 : 103-131.
- 2) 日本鳥学会 (2012) 日本鳥類目録改訂第7版. 日本鳥学会.
- 3) 松井理生・高德佳絵・才木道雄・荒木田善隆 (2013) 巣箱によるシジュウカラとヤマガラの30年間の繁殖記録. 平成24年度技術職員等試験研究・研修会議報告 : 33-37.
- 4) 石田健 (1987) 山中湖の東京大学富士演習林周辺の鳥類群集 I. 概説. Strix 6 : 66-79.
- 5) 石田健 (1988) 東京大学農学部附属演習林田無試験地における主要な鳥類の生息状況 - 鳥状に隔離された緑地の鳥類相について -. 東大演報80 : 193-201.
- 6) 千葉県野鳥の会 (2005) 鳥獣保護区等内野生鳥獣生息環境調査報告 (平成17年度). 千葉県野鳥の会.
- 7) 千嶋武・荒木田善隆 (2008) 田無試験地の繁殖期の鳥類相 - 20年前とどう変わったか -. 平成19年度技術職員等試験研究・研修会議報告 : 33-40.
- 8) 石田健 (1997) 鳥類群集路森林の物理的構造. 大面積プロットによる秩父地方山地帯天然林生態系の解明 (研究代表者梶幹男).
- 9) 柴田栄 (1981) 秩父演習林およびその周辺における林相と鳥類群集. 東京大学農学部林学科森林動物学研究室卒業論文.
- 10) 有澤浩・芝野伸策 (1983) 自然公園総合調査 (富良野芦別道立自然公園) 報告書. 芦別・夕張山系の鳥類 : 144-155.
- 11) 有澤浩 (1988) クマゲラ営巣木周辺における繁殖期の鳥類相. 日林北支論37 : 113-115.
- 12) 東京大学農学部附属演習林 (1989) 秩父演習林自然環境調査報告書 (昭和63年度). 31-40.

表-1. 各演習林の確認種における季節性, 繁殖状況

和名	学名	千葉	北海道	秩父	生水	富士	樹芸	田無	文献
キジ目 GALLIFORMES									
キジ科 PHASIANIDAE									
1	エゾライチョウ <i>Tetrastes bonasia</i>		R2						1
2	ヤマドリ <i>Symaticus soemmerringii</i>	R3		R1	R2		R2		1
3	キジ <i>Phasianus colchicus</i>			r3	r2	r3	r3		1.9
カモ目 ANSERIFORMES									
カモ科 ANATIDAE									
4	コハクチョウ <i>Cygnus columbianus</i>		P						
5	オオハクチョウ <i>Cygnus cygnus</i>		P						
6	オシドリ <i>Aix galericulata</i>	R1	S3	A			r3		1
7	マガモ <i>Anas platyrhynchos</i>	w	W	W					1
8	カルガモ <i>Anas zonorhyncha</i>	R1	S1		R3	R3	R3	r3	5
9	コガモ <i>Anas crecca</i>	w	W						1
10	キンクロハジロ <i>Aythya fuligula</i>	w							1
11	カワアイサ <i>Mergus merganser</i>		R3						
ハト目 COLUMBIFORMES									
ハト科 COLUMBIDAE									
12	キジハト <i>Streptopelia orientalis</i>	R2	S2	R3	R2	R2	R3	R2	1
13	アオハト <i>Trogon sieboldii</i>	R3	S3	S3	R3	S3	R3	R3	
ミズナギドリ目 PROCELLARIIFORMES									
ウミツバメ科 HYDROBATIDAE									
14	ハイロウミツバメ <i>Oceanodroma furcata</i>	p							1
カツオドリ目 SULIFORMES									
ウ科 PHALACROCORACIDAE									
15	カワウ <i>Phalacrocorax carbo</i>	r			r3				1
ペリカン目 PELECANIFORMES									
サギ科 ARDEIDAE									
16	ミンゴイ <i>Gorsachius goidagi</i>	S1			S3		s3		1
17	ゴイサギ <i>Nycticorax nycticorax</i>			s3					8
18	アオサギ <i>Ardea cinerea</i>	R3	S3		R3	R3	R3		
19	ダイサギ <i>Ardea alba</i>					R3			
20	コサギ <i>Egretta garzetta</i>	r3			r3				1
ツル目 GRUIFORMES									
クイナ科 RALLIDAE									
21	クイナ <i>Rallus aquaticus</i>		s3						10
22	ヒクイナ <i>Porzana fusca</i>		s3						10
23	バン <i>Gallinula chloropus</i>	r3	s3						10
カッコウ目 CUCULIFORMES									
カッコウ科 CUCULIDAE									
24	ジュウイチ <i>Hierococcyx hyperythrus</i>	s3	S3	S3	s3	p			1.4
25	ホトギス <i>Cuculus poliocephalus</i>	S3		S3	S3	S2	S3	S3	4
26	ツツドリ <i>Cuculus optatus</i>	s3	S1	S3	S3	P	s3		1
27	カッコウ <i>Cuculus canorus</i>	S3	S3		s3	S2	s3		1.4
ヨタカ目 CAPRIMULGIFORMES									
ヨタカ科 CAPRIMULGIDAE									
28	ヨタカ <i>Caprimulgus indicus</i>	s3	S1	S1	S2	s2	s3		1.4
アマツバメ目 APODIFORMES									
アマツバメ科 APODIDAE									
29	ハリオアマツバメ <i>Hirundapus caudacutus</i>		S3	s3					9
30	アマツバメ <i>Apus pacificus</i>	s3			s3	P			1
	ヒメアマツバメ <i>Apus nipalensis</i>	s3							6
チドリ目 CHARADRIIFORMES									
チドリ科 CHARADRIIDAE									
31	コチドリ <i>Charadrius dubius</i>		s3						10
シギ科 SCOLOPACIDAE									
32	ヤマシギ <i>Scolopax rusticola</i>		S3		R3	s2	R3		4
33	アオシギ <i>Gallinago solitaria</i>		W						
34	オオジシギ <i>Gallinago hardwickii</i>		S3						
35	クサシギ <i>Tringa ochropus</i>	w							6
36	イノシギ <i>Actitis hypoleucos</i>	r3	s3						6.1
37	ハイロヒレアシシギ <i>Phalaropus filicarius</i>			P					
タカ目 ACCIPITRIFORMES									
ミサゴ科 PANDIONIDAE									
38	ミサゴ <i>Pandion haliaetus</i>	w	S1			A	R3		1
タカ科 ACCIPITRIDAE									
39	ハチクマ <i>Pernis ptilorhynchus</i>	s3			s2	a			1.4
40	トビ <i>Milvus migrans</i>	R3	R2	R1	R2	R2	R3		1

アルファベットは季節性を表す。R: 留鳥, S: 夏鳥, W: 冬鳥, P: 旅鳥, A: 迷鳥。小文字表記は2008年7月以前のみの確認。数字は繁殖状況を表す。1: 2008年8月以降に繁殖確認, 2: 2008年7月以前に繁殖確認, 3: 繁殖未確認

和名	学名	千葉	北海道	秩父	生水	富士	樹芸	田無	文献
41	オジロワシ <i>Haliaeetus albicilla</i>		W						
42	オオワシ <i>Haliaeetus pelagicus</i>		W						
43	ツミ <i>Accipiter gularis</i>	R1	s3	s2	r3	s2	R3	R3	1.4.8
44	ハイタカ <i>Accipiter nisus</i>		r3	R3	r3	R1	R1		1
45	オオタカ <i>Accipiter gentilis</i>	R3	R1	R3	R2	A	R1	R1	1
46	サシバ <i>Butastur indicus</i>	S3		S3	S2	a			1.4
47	ノスリ <i>Buteo buteo</i>	w	R2	S3	R3	a	W		1.4
48	ケアシノスリ <i>Buteo lagopus</i>		w						10
49	クマタカ <i>Nisaetus nipalensis</i>		R3	R3			R3		
フクロウ目 STRIGIFORMES									
フクロウ科 STRIGIDAE									
50	オオコノハズク <i>Otus lempiji</i>				R3				
51	コノハズク <i>Otus sunia</i>		s3	S3	s3				1
52	フクロウ <i>Strix uralensis</i>	R3	R3	R3	R1	R2	R3		1.4
53	アオバズク <i>Ninox scutulata</i>	r3	s3	S3			S3		6.1
ブッポウソウ目 CORACIIFORMES									
カワセミ科 ALCEDINIDAE									
54	アカシヨウビン <i>Halcyon coromanda</i>		s3	S3	S3	a			4.11
55	カワセミ <i>Alcedo atthis</i>	R2	S3		r2		R3	r3	1.5
56	ヤマセミ <i>Megaceryle lugubris</i>	r3	R3		r3		r3		1
キツツキ目 PICIFORMES									
キツツキ科 PICIDAE									
57	コゲラ <i>Dendrocopos kizuki</i>	R3	R3	R2	R2	R2	R3	R2	1
58	オオアカゲラ <i>Dendrocopos leucotos</i>		R3	R1	r3	a			1.4
59	アカゲラ <i>Dendrocopos major</i>	r3	R2	R3	R3	R1	r3		1.6
60	クマガゲラ <i>Dryocopus martius</i>		R2						1
61	アオゲラ <i>Picus awokera</i>	r3		R3	R2	R2	R3	R3	1.6
62	ヤマゲラ <i>Picus canus</i>		R3						
ハヤブサ目 FALCONIFORMES									
ハヤブサ科 FALCONIDAE									
63	チョウゲンボウ <i>Falco tinnunculus</i>	r3							1
64	チゴハヤブサ <i>Falco subbuteo</i>		S3						
65	ハヤブサ <i>Falco peregrinus</i>	w	r3		r3		R3		1.6.10
スズメ目 PASSERIFORMES									
サンショウクイ科 CAMPEPHAGIDAE									
66	サンショウクイ <i>Pericrocotus divaricatus</i>			p	S3	s2			4.8.12
カササギヒタキ科 MONARCHIDAE									
67	サンコウチョウ <i>Terpsiphone atrocaudata</i>	S2		s3	S2	s3	S1		1.12
モズ科 LANIIDAE									
68	チゴモズ <i>Lanius tigrinus</i>					a2			4
69	モズ <i>Lanius bucephalus</i>	r3	S2	R3	R2	R2	R3	r2	1.4.5.9
70	アカモズ <i>Lanius cristatus</i>					s2			4
71	オオモズ <i>Lanius excubitor</i>		W						
カラス科 CORVIDAE									
72	カケス <i>Garrulus glandarius</i>	R3	R3	R1	R2	R2	R3	r3	1.4.5.6
73	オナガ <i>Cyanopica cyanus</i>	r3		R2		R3		R3	1
74	ホシガラス <i>Nucifraga caryocatactes</i>		R3	P		a			4
75	ハシボソガラス <i>Corvus corone</i>	R3	R2	R3	R2	R3	R3	R3	1
76	ハシブトガラス <i>Corvus macrorhynchos</i>	R3	R3	R3	R2	R2	R2	R2	1.4
キクイタダキ科 REGULIDAE									
77	キクイタダキ <i>Regulus regulus</i>	w	R3	R3	w	R3		R3	1
シジュウカラ科 PARIDAE									
78	ハシブトガラ <i>Poecile palustris</i>		R3						
79	コガラ <i>Poecile montanus</i>		R3	R1	r3	R2	R3	R3	1.4
80	ヤマガラ <i>Poecile varius</i>	R2	R3	R1	R1	R3	R1	R3	1
81	ヒガラ <i>Pariparus ater</i>	w	R3	R1	R2	R2		r3	1.5.6
82	シジュウカラ <i>Parus minor</i>	R1	R3	R1	R1	R1	R1	R1	
ヒバリ科 ALAUDIDAE									
83	ヒバリ <i>Alauda arvensis</i>		S3					R3	
ツバメ科 HIRUNDINIDAE									
84	ツバメ <i>Hirundo rustica</i>	S2		S2	s3	S3	S1	S3	1
85	コシアカツバメ <i>Hirundo daurica</i>				s3				1
86	イワツバメ <i>Delichon dasypus</i>	s3	S2	s2	s3	s2	s3		1.4.6.8.9.12
ヒヨドリ科 PYCNOTIDAE									
87	ヒヨドリ <i>Hypsipetes amaurotis</i>	R3	R3	R3	R2	R2	R3	R2	1
ウグイス科 CETTHIDAE									
88	ウグイス <i>Cettia diphone</i>	R2	S2	R2	R2	S2	R1	R3	1
89	ヤブサメ <i>Urosphena squameiceps</i>	S1	S3	S2	S2	p	S3		1.4

アルファベットは季節性を表す。R:留鳥, S:夏鳥, W:冬鳥, P:旅鳥, A:迷鳥。小文字表記は2008年7月以前のみの確認。

数字は繁殖状況を表す。1:2008年8月以降に繁殖確認, 2:2008年7月以前に繁殖確認, 3:繁殖未確認

和名	学名	千葉	北海道	秩父	生水	富士	樹芸	田無	文献
エナガ科 AEGITHALIDAE									
90	エナガ <i>Aegithalos caudatus</i>	R3	R2	R3	R2	R2	R3	R1	1
ムシクイ科 PHYLLOSCOPIDAE									
91	メボソムシクイ <i>Phylloscopus xanthodryas</i>			S3	p	P		s3	1.5
92	エゾムシクイ <i>Phylloscopus borealoides</i>	S3	S3	S3	p				1
93	センダイムシクイ <i>Phylloscopus coronatus</i>	S3	S3	S3	S2	S3		s3	1.5
メジロ科 ZOSTEROPIDAE									
94	メジロ <i>Zosterops japonicus</i>	R2	S3	R3	R2	R1	R2	R2	1
センニュウ科 LOCUSTELLIDAE									
95	エゾセンニュウ <i>Locustella fasciolata</i>		s3						11
レンジャク科 BOMBYCILLIDAE									
96	キレンジャク <i>Bombycilla garrulus</i>	w	W		p				1.6
97	ヒレンジャク <i>Bombycilla japonica</i>	W	W		p				1
ゴジュウカラ科 SITTIDAE									
98	ゴジュウカラ <i>Sitta europaea</i>		R2	R2		R3			1
キバシリ科 CERTHIDAE									
99	キバシリ <i>Certhia familiaris</i>		R3	R3					
ミノサザイ科 TROGLODYTIDAE									
100	ミノサザイ <i>Troglodytes troglodytes</i>	R3	R3	R2	R2	R3	R3		1
ムクドリ科 STURNIDAE									
101	ムクドリ <i>Spodiopsar cineraceus</i>	R3	S2	R2	r3	R3	R3	R3	1
102	コムクドリ <i>Agropsar philippensis</i>		S2			S2			1
カワガラス科 CINCLIDAE									
103	カワガラス <i>Cinclus pallasii</i>		R2	R2	R2		r3		1
ヒタキ科 MUSCICAPIDAE									
104	マミジロ <i>Zoothra sibirica</i>		S3	S3	S3	s2			4
105	トラツグミ <i>Zoothra dauma</i>	R3	S2	S3	R3	s2	R3		1.4
106	クロツグミ <i>Turdus cardis</i>	S3	S3	S2	S3	S2	S3		1
107	マミチャジナイ <i>Turdus obscurus</i>	w	P						6
108	シロハラ <i>Turdus pallidus</i>	W	P	W	W	W	W	w	5
109	アカハラ <i>Turdus chrysolaus</i>	W	S3	S3	W	s2	w	w	1.5
110	ツグミ <i>Turdus naumanni</i>	W	W	W	W	W	W	w	5.7
111	コマドリ <i>Luscinia akahige</i>		S3	S3					
112	ノゴマ <i>Luscinia calliope</i>		S3	P					
113	コルリ <i>Luscinia cyane</i>	S1	S3	S3		S3			
114	ハリビタキ <i>Tarsiger cyanurus</i>	W	S3	R2	W	W	W		1
115	ジョウビタキ <i>Phoenicurus aureoreus</i>	W		W	W	W	W		1
116	ノビタキ <i>Saxicola torquatus</i>	p							6
117	イノヒトリ <i>Monticola solitarius</i>	R3	S3				R1		
118	エゾビタキ <i>Muscicapa griseisticta</i>	p		p		p			4.6.8
119	サメビタキ <i>Muscicapa sibirica</i>		S3	p		p			4.8.9
120	コサメビタキ <i>Muscicapa dauurica</i>	p	S2	P	s2	S1			1.6
121	キビタキ <i>Ficedula narcissina</i>	S1	S2	S3	S2	S1	S3	S3	1
122	オオルリ <i>Cyanoptila cyanomelana</i>	S1	S2	S2	S1		S1		1
イワヒバリ科 PRUNELLIDAE									
123	イワヒバリ <i>Prunella collaris</i>			W					
124	カヤクグリ <i>Prunella rubida</i>	w	S3	R3	w	a	r3		1.4
スズメ科 PASSERIDAE									
125	ニューナイスズメ <i>Passer rutilans</i>		S2						1
126	スズメ <i>Passer montanus</i>	r3	R3	R2	R3	R3	R2	R3	1
セキレイ科 MOTACILLIDAE									
127	キセキレイ <i>Motacilla cinerea</i>	R1	S1	S2	R2	R2	R3		1
128	ハクセキレイ <i>Motacilla alba</i>	R3	S2	R3	R3	R3	R3	r3	1.7
129	セグロセキレイ <i>Motacilla grandis</i>	r3	S1	r3	r3	R3	R3	r3	1.5
130	ビンズイ <i>Anthus hodgsoni</i>		S3	R3	W	s2	r3	w	1.4.5
アトリ科 FRINGILLIDAE									
131	アトリ <i>Fringilla montifringilla</i>	W	W	W	w	W			1
132	カワラヒワ <i>Chloris sinica</i>	R3	S2	R3	R2	R3	R3	R3	1
133	マヒワ <i>Carduelis spinus</i>	W	R3	w	W	a			1.4.8.9
134	ベニヒワ <i>Carduelis flammea</i>		W						
135	コベニヒワ <i>Carduelis hornemanni</i>		W						
136	ハギマシコ <i>Leucosticte arctoa</i>			w					9
137	ベニマシコ <i>Uragus sibiricus</i>	w	S3	w	w	w			4.9
138	オオマシコ <i>Carpodacus roseus</i>			a					8.9
139	ギンザンマシコ <i>Pinicola enucleator</i>		R3						
140	イスカ <i>Loxia curvirostra</i>		R3						
141	ウソ <i>Pyrrhula pyrrhula</i>	w	R3	R3	W		w		1
142	アカウソ <i>Pyrrhula pyrrhula rosacea</i>					P			

アルファベットは季節性を表す。R:留鳥, S:夏鳥, W:冬鳥, P:旅鳥, A:迷鳥。小文字表記は2008年7月以前のみの確認。
 数字は繁殖状況を表す。1:2008年8月以降に繁殖確認, 2:2008年7月以前に繁殖確認, 3:繁殖未確認

和名	学名	千葉	北海道	秩父	生水	富士	樹芸	田無	文献
143	シメ <i>Coccothraustes coccothraustes</i>	w	R3	W	w	W	W	w	1.5
144	イカル <i>Eophona personata</i>		S3	R3	R3	R3	R3	r3	5.7
ホオジロ科 EMBERIZIDAE									
145	ホオジロ <i>Emberiza cioides</i>	R2	S2	R2	R2	R1	R3	r2	1.5.7
146	ホオアカ <i>Emberiza fucata</i>				w				1
147	カシラダカ <i>Emberiza rustica</i>	W		W	w	W	w		1
148	ミヤマホオジロ <i>Emberiza elegans</i>		W			w			4
149	ノジコ <i>Emberiza sulphurata</i>					S3			
150	アオジ <i>Emberiza spodocephala</i>	W	S2	W	W	s3	W	r3	1.5
151	クロジ <i>Emberiza variabilis</i>	W	S3	S3	w	a	W		1.4
以下、外来種									
キジ目 GALLIFORMES									
キジ科 PHASIANIDAE									
152	コジュケイ <i>Bambusicola thoracicus</i>	R1		r2	R2	R3	R3	r2	1.5
ハト目 COLUMBIFORMES									
ハト科 COLUMBIDAE									
153	カララバト(ドバト) <i>Columba livia</i>							r3	5
インコ目 PSITTACIFORMES									
インコ科 PSITTACIDAE									
154	ワカケホンセイインコ <i>Psittacula krameri manillensis</i>							r3	7
スズメ目 PASSERIFORMES									
チメドリ科 TIMALIIDAE									
155	ガビチョウ <i>Garrulax canorus</i>			R3		A			
156	ソウシチョウ <i>Leiothrix lutea</i>			R2	R3	R3		r3	7
		93	115	95	92	91	71	45	

アルファベットは季節性を表す。R:留鳥, S:夏鳥, W:冬鳥, P:旅鳥, A:迷鳥。小文字表記は2008年7月以前のみの確認。

数字は繁殖状況を表す。1:2008年8月以降に繁殖確認, 2:2008年7月以前に繁殖確認, 3:繁殖未確認